

令和3年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツ用具活用促進事業)」
成果報告書

2022年3月

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
神奈川リハビリテーション病院

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団神奈川県総合リハビリテーション病院が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用促進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1. 概要

障害者（児）の障害者スポーツを通じた社会参加を促すため、障害者スポーツ参加のきっかけとなる機会の提供と参加継続を支援するための拠点構築を目的とする。

今回、地域に根付いたリハビリテーション病院をフィールドとして活用することで、障害者スポーツ参加のきっかけとなる機会を受傷後早期からピアカウンセリングとして行えるだけでなく、退院後の地域生活においても気軽に障害者スポーツをはじめることができるきっかけや継続的な参加に繋げる環境の提供など、地域における障害者スポーツの活動拠点の構築を目指した。

そのために本事業を実施するための目標としては、①障害者スポーツを共に始め、楽しみ、競うことができる環境を整備すること、そして、②障害に応じた競技用車椅子や競技用義足の適合と活用、③健康増進や二次障害予防に向けた支援体制を構築することである。

そのために、用具や環境の整備、実施体制の構築の後、障害の有無に限らず多くの方が障害者スポーツに興味をもつためのきっかけとなりうる機会を提供するために入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験（対象①）と地域在住で障害者スポーツに興味・関心を持つ方等を対象とした体験会の（対象②）を実施した。

2. 用具の整備

本事業では、車いすバスケットボールと車いすテニス、バドミントン、陸上、自転車の5競技に着目し、それぞれの競技用車椅子やスポーツ用義足、ハンドサイクル、二人乗り用タンデムサイクル等の整備をおこなった。

車いすバスケットボール（図1）と車いすテニス（図2）、バドミントン（図3）競技については、競技体験時の安全を確保するためのサイドガードや骨盤ベルト、体幹ベルト等を備え、体幹機能障害を有するユーザーでも容易な操作が可能になるよう、バックサポート高や前座高、後座高、フットサポート高を調整できる機能を有する競技用車椅子を整備した。また、子供の体験にも対応できるよう多目的に使用できる児童用スポーツ車椅子（図4）も整備した。

陸上競技用車椅子（レーサー）（図5、6）は、車椅子の重心位置が通常的車椅子より前方に位置しているため後方転倒のリスクが高い。そのため今回整備する機体は、転倒防止輪を備えたものを選定した。また、駆動時に高速で回転する大車輪のスポークに指を挟み込むリスクもあるため、専用のグローブも準備した。陸上競技で用いるスポーツ用義足（図7）は、当院に義肢装具士が常駐していることからソケットの作成や適合、義足の調整等ができる環境が整っているため、下腿義足使用者と大腿義足使用者が用いるスポーツ用の足部と大腿義足使用者が用いるスポーツ用の膝継手を整備した。スポーツ用の足部については、使用者の体重に合わせて選択できるように強さの異なるものを複数整備した。

自転車競技は、近年車椅子ユーザーの中で健康維持やアクティビティを目的にハンドサイクルへ注目が集まっていることから、既存の車椅子への取付が容易な競技用（図8）とアダプタータイプ（図9）を整備した。また、視覚障害者のニーズに対しても身体障害同様に健康維持やアクティビティを目的として使用できるように二人乗り用タンデム自転車（図10）を整備した。



図 1. 車いすバスケットボール用車椅子 (2台)



図 2. 車いすテニス用車椅子 (2台)



図 3. バドミントン用車椅子 (2台)



図 4. 児童用スポーツ車椅子 (2台)

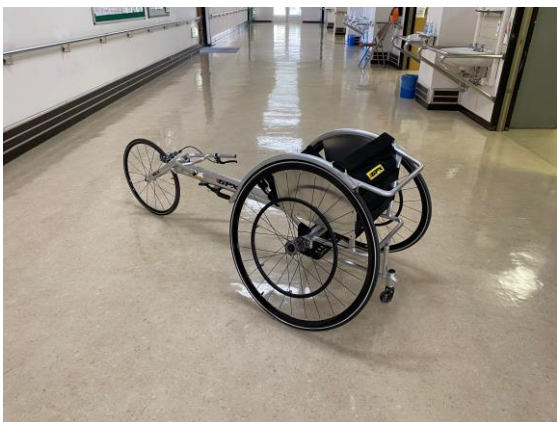


図 5. 陸上競技用車椅子 (レーサー)



図 6. 陸上競技用車椅子 (レーサー)



図 7. スポーツ義足 (足部 4本、膝継手 1個)



図 8. 自転車競技 (競技用ハンドサイクル)



図 9. 自転車競技 (アダプタータイプハンドサイクル)



図 10. 自転車競技 (二人乗り用タンデム自転車)

3. 障害者スポーツ活動拠点の整備

本事業では、地域に根付いたリハビリテーション病院（神奈川リハビリテーション病院）を障害者スポーツの活動拠点とし、障害者スポーツへの参加や継続的な支援をおこなうことができるよう実施体制の構築を目指した。

3-1. 障害者スポーツの活動拠点の紹介

神奈川リハビリテーション病院は、昭和 48 年に開設され、脊髄損傷、脳外傷、骨・関節疾患、小児神経疾患、神経難病、脳血管疾患等の治療と訓練により、早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っているリハビリテーションの専門病院である。

手術機能も含む 17 の診療科による総合的な診療を可能としており、脊髄障害などの障害特性から生じる合併症治療や既往障害がある方に対して既往障害の特性等を踏まえた一般医療の提供している。脊髄損傷患者は年間 28 名程（脊髄損傷者 13 名、頸髄損傷者 25 名）、下肢切断患者は年間 4 名程度、それぞれ急性期病院を経てリハビリテーションを目的に入院し、治療やリハビリテーション訓練を実施している。

リハビリテーション部門では、多職種連携とチームアプローチによる支援を行っており、理学療法、作業療法、言語療法の他に、独自のリハビリテーション部門である職能、体育、リハ工学、心理などがある。その中の体育は、障害者スポーツやレクリエーションを活用して機能回復や体力維持・向上を目的とした体育指導をリハビリテーションの一環でおこなう部門であり、病院に整備された体育館や 100m 走路、プールといった施設を用いたプログラムを実施している（図 11）。



図 11. 障害者スポーツの活動拠点の環境

3-2. 実施体制

神奈川リハビリテーション病院では、2019年度と2020年度にスポーツ庁の事業である「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」を神奈川県から委託された。この事業の実施体制でもあった、地域の施設等への障害者スポーツの普及推進を担う「かながわ障害者スポーツ支援部門～Kanagawa Para-Sports Support Project～（以下、「KPSP」という）」（図12）が病院内に職種横断的なチームを作っており、医師や看護師、セラピスト、リハエンジニア、義肢装具士などが関わっている。本事業においてもこのKPSPが拠点の運営を担っている。

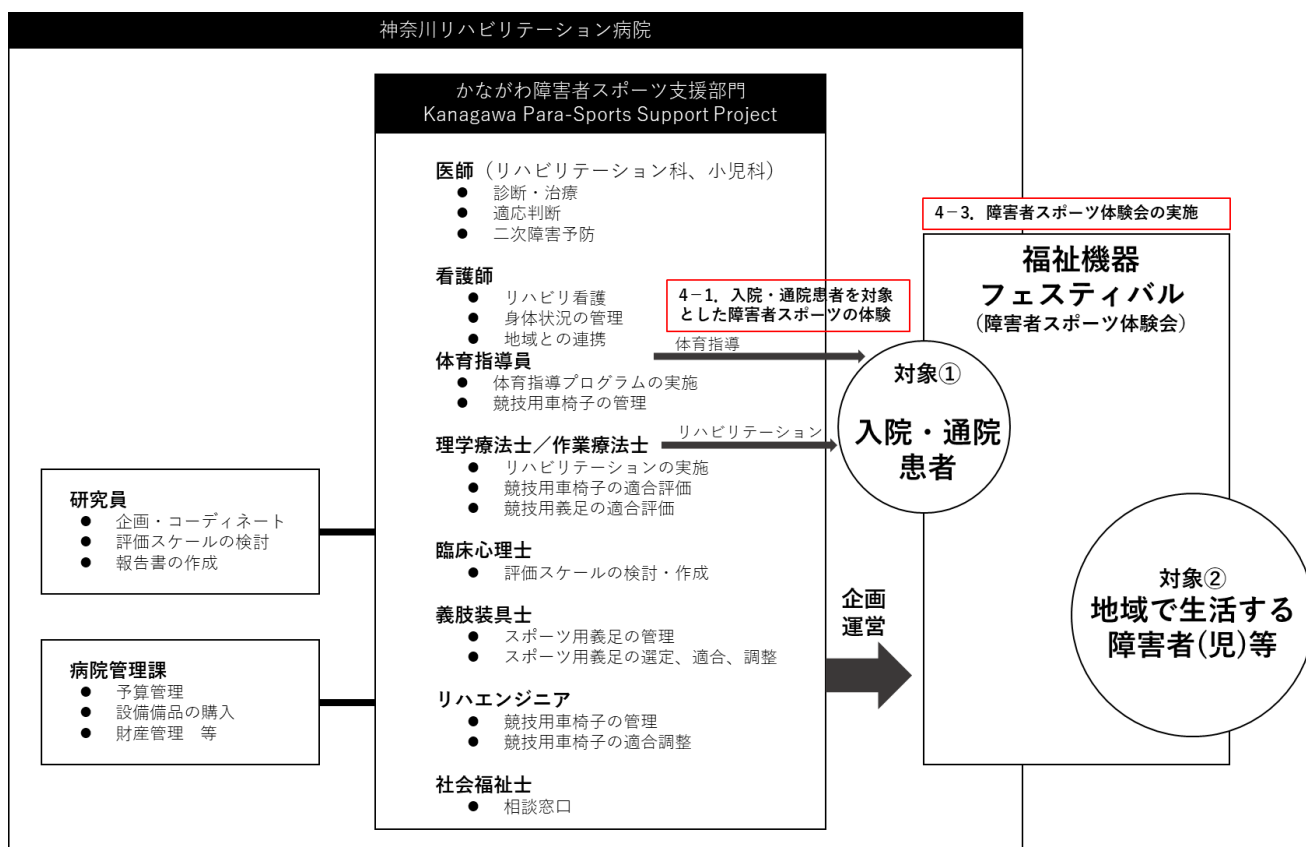


図 12. KPSP による実施体制と役割

4. 障害者スポーツ体験会の実施

本事業では、障害の有無に限らず多くの方が障害者スポーツに興味をもつためのきっかけとなりうる機会を提供するために入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験（対象①）と地域在住で障害者スポーツに興味・関心を持つ方等を対象とした体験会の実施（対象②）を計画した。

4-1. 入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験

入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験は、リハビリテーションにおいて体育指導員が担う体育指導プログラムにおいて、車いすバスケットボール、車いすテニス、バドミントン、陸上競技、自転車競技の体験を計画した。体育指導は、週に3回、1回40分を基本とし、集団で実施しており、ピアカウンセリングの場として障害受容の促進に繋げるだけでなく、仲間と共に始め、楽しみ、競うことができる場としている。体育指導の実施可否や開始時期、頻度等は、対象者の身体状況を診て担当医師が判断するため実施期間や回数は個々に異なる。

本事業では、表1に示す対象者に対して、以下①から③の内容で実施した。

表1 対象者の状況と体育指導プログラム内での競技体験回数

対象者	身体状況	入院／通院	実施期間	体験回数
A	脊髄損傷	入院	2022年3月	2
B	脊髄損傷	入院	2022年3月	2
C	両下腿切断	通院	2022年1月～	10
D	大腿切断	通院	2022年1月～	10
E	大腿切断	通院	2022年1月～	10
F	大腿切断	通院	2022年1月～	10
G	視覚障害 (視野狭窄)	通院	2022年3月	1

①入院患者を対象とした障害者スポーツの体験

対象者は、脊髄損傷者（40代50代、男性）2名である。リハビリテーションの実施状況をみて実施体制の整った2022年3月に体育指導プログラムの中で障害者スポーツ体験（車いすテニスやバドミントン）を実施した（図13）。

入院患者に対しては、入院時に実施する様々な評価を含め今回の体験による効果を検証することを考えていた。しかし、入院時はリハビリテーション訓練による様々な介入があるため障害者スポーツの体験効果を明確に示すことが難しい。そこで、今回は地域在住の障害者スポーツに興味・関心をもつ方々等を対象におこなった同様のアンケートを用いて評価した。

体験後のアンケート結果は、体験の満足度は5段階評価で最も高い5を2名とも示していた。障害者スポーツ用の用具の使用経験は1名が車いすバスケットボール用車椅子の使用経験があった。また、今回の体験を通じて2名とも障害者スポーツに高い興味を示しており、継続的な障害者スポーツへの参加については「参加したいと思う」という回答と「少し思う」との回答を得た。そして、今回体験した2名は、「機会があればまた障害者スポーツ競技体験したい」との感想を述べていた。



図 13. 入院患者を対象とした障害者スポーツの体験

②下肢切断者へのスポーツ義足を用いた陸上競技体験（通院）

対象者は、両下腿切断者 1 名（30 代、男性）、大腿切断者 3 名（40 代 2 名、50 代 1 名、男性）の 4 名である。スポーツ用義足（足部と膝継手）が整った 2022 年 1 月から 2022 年 3 月にかけて、理学療法および体育指導プログラムの中で義肢装具士によるスポーツ用義足の評価・適合を実施し、走る練習を院内でそれぞれ 10 回おこなった。その後 3 月 26 日に荻野運動公園で実施した障害者スポーツ体験会に参加し、陸上競技場のトラックでの練習と 50m 走のタイム計測等を実施した。下肢切断者のアンケート結果は、障害者スポーツ体験会のアンケートとして集計している。

なお、今回スポーツ用義足を用いた陸上競技体験をした 3 名は、2022 年 4 月に開催される令和 4 年度神奈川県障害者スポーツ大会の陸上競技に参加を希望しているため、参加や継続支援を実施していく。



図 14. 大腿切断者のスポーツ用義足体験

③視覚障害者への二人乗りタンデム自転車体験（通院）

先天性の視覚障害者（視野狭窄）（40 代、男性）1 名を対象とし、体育指導プログラムの中で、二人乗り用タンデム自転車を用いた自転車競技体験を 2022 年 3 月に 1 回実施した（図 14）。パイロットは体育指導員が担い、後ろに視覚障害者が乗って屋外走路にて体験した。体験後のアンケートでは、体験の満足度は 5 段階評価で最も高い 5 であった。これまで障害者スポーツ用の用具の使用経験はないが、今回の体験により障害者スポーツに興味を示していた。障害者スポーツの経験はフロアバレーボールとグランドソフトボール、サウンドテーブルテニスなどがあり、盲学校での

体験がきっかけとなり始めたフロアバレーボールは20年（3ヶ月に1～2日）の競技経験がある。体験後の感想として「機会があればまた障害者スポーツ競技体験を実施したい」、「目が見えているときは自転車が好きであったため、今回風を感じることができて良かった」「良い運動になった」、「ギアを変える際にペダルの重さが変わる感触がとても新鮮であった」などがあった。



図 15. 二人乗りタンデム自転車の体験

4-2. かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバルの実施

退院患者や地域で生活をしている障害者（児）とその家族、近隣住民等を対象とした障害者スポーツの体験会を以下①～⑦の内容で計画した。開催に向けて、厚木市が 400 名規模で開催するスポーツイベントと同日同会場での同時開催をすべく調整をおこない、厚木市や厚木市教育委員会、神奈川県の後援を得るなど準備をしていた。

しかし、2022年3月4日（金）、新型コロナウイルスの感染拡大により2022年3月6日（日）までを期限に実施されていたまん延防止等重点措置が2022年3月21日（月）まで延長となった。そのため、公共施設での実施と不特定多数の参加者を見込んでいた本体験会は、感染拡大を防ぐためにも中止となった。

(1). 体験会の内容

- ① 企画名： かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル
障害者スポーツ体験祭
- ② 目的： ・障害者スポーツの普及・促進
・障害者スポーツ参加（観る・する・支える）のきっかけの提供
・身体状況に応じた競技用車椅子や競技義足の適合と活用の支援
・障害者スポーツ支援機関としての体制構築
- ③ 対象： 退院患者や地域で生活をしている障害者（児）とその家族、近隣住民等
- ④ 会期： 2022年3月19日（土）10時～15時
- ⑤ 会場： 厚木市荻野運動公園（陸上競技場・体育館・テニスコート）
〒243-0202 神奈川県厚木市中荻野 1500
- ⑥ 内容： 車いすバスケットボール、車いすテニス、バドミントン、
自転車競技、陸上競技の体験
- ⑦ 後援： 神奈川県、厚木市、厚木市教育委員会

3-2. 体験会の広報用ポスター

かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル
障がい者スポーツ体験祭
2022.3.19 (土) 10:00 開始
15:00 終了
in 厚木市荻野運動公園

サブアリーナ
車いすバスケットボール
車いすバドミントン

陸上競技場
レーサー
スポーツ用義足

テニスコート&駐車場
車いすテニス
ハンドサイクル
タンデムサイクル

※ 当日は厚木市教育委員会主催の「スポーツなじみDAY」も開催しております。
※ 事前登録を受け付けております。試乗車に限りがあるため、事前登録することをお勧めします。
※ 雨天の場合、体験内容を変更させていただきます。
※ ご来場の際は、はじめに受付にお越しいただき、参加証を受け取りください。
※ 感染拡大防止のため、イベントを中止する場合がありますのでご注意ください。
中止の場合、HP等でお知らせいたします。

参加費無料

当日受付可能です。事前登録は専用フォームよりお申込みください。↓↓↓

後援：厚木市、厚木市教育委員会、神奈川県
協力：(株)アクティフプロス、(商)アクティフショップまる、(株)アマモトプレス
(有)オーエックス神奈川、神奈川トヨタ自動車(株)、(株)アレウス
日本ワイヤー・チエー(株) (50音順)

主 催：神奈川県総合リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院
お問合せ：046-249-2590 Email: kanareha-festival@kanagawa-rehab.or.jp

かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル
障がい者スポーツ体験祭

厚木市荻野運動公園で様々な障がい者スポーツを体験できるイベントです。
競技用の車椅子や義足を多数準備してお待ちしております。

サブアリーナ **陸上競技場** **テニスコート&駐車場**

車いすバスケットボール
レーサー
車いすテニス
車いすバドミントン
スポーツ用義足
ハンドサイクル
タンデムサイクル

本イベントはどなたでもご参加いただけます。当日受付もいたしますが、事前に体験したい競技が決まっていたら、事前登録いただくとスムーズなご案内が可能です。身体状況により、当日の体験をお断りする場合があります。ご心配の場合はメールまたはお電話でお問い合わせください。

事前登録：専用フォームより、申し込みお願いいたします。URL →
<https://forms.gle/RLhM8bF8Suan3v17A>

※ 事前登録は先着順です。定員になり次第締め切らせていただきます。
※ 当日参加も可能ですが、事前登録者優先となることをご了承ください。
※ 雨天の場合、予告なく実施内容を変更いたしますので、予めご了承ください。
※ スポーツ庁のガイドラインに沿って、新型コロナウイルスの感染症防止対策を実施いたします。主催者の支持に従っていただけない場合には、参加をお断りさせていただきます。

会場 厚木市荻野運動公園
神奈川県厚木市中荻野1500

アクセス
電車、バスの場合
小田急厚木駅よりバス30分
「稲荷木」または「宮の堂東」バス停下車
お車の場合
東名厚木ICから40分、無料駐車場あり

主 催：神奈川県総合リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院
お問合せ：046-249-2590 Email: kanareha-festival@kanagawa-rehab.or.jp

4-3. 障害者スポーツ体験会の実施

この体験会は、まん延防止等重点措置により中止となった3月19日（土）の「かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル」に代わり企画したものである。会期を2022年3月19日と20日、21日のそれぞれ午前の部と午後の部とし、加えて3月26日の午後の部を含む全7セッションとして計画し、各セッションの定員を設けて事前の申込者のみを対象として、感染予防対策をおこなったうえで開催した。

会場は、3月19日と20日、21日を神奈川リハビリテーション病院の体育館と100m 走路とし、3月26日を厚木市荻野運動公園陸上競技場として実施した。

体験会の内容は、本事業で整備した競技用の車椅子等を用いた5競技（車いすバスケットボール、車いすテニス、バドミントン、陸上競技、自転車競技）とした。

受付後には、当院に所属するPTやエンジニア、義肢装具士が参加者の身体状況にできるだけ適合する機器を選定し、フットサポート高の調整や車椅子用クッションの選択、体幹パッドや体幹ベルトの装着などを実施（図16、29）した上で、機器の操作説明（図17）、競技紹介、体育指導員による準備運動（図18）、競技体験（図19、20、21、22、23、25、26、27、28、29、30、31）を実施する流れでおこなった。

体験会終了後には、アンケートを実施し参加者の年齢や性別、本体験会の情報の取得方法、体験会の満足度、障害者スポーツの体験経験の有無、障害者スポーツへの興味、障害者スポーツへの参加状況等を調査、集計した後に本事業の成果について検討をおこなった。

(1). 体験会の参加者

4日間の会期で開催した体験会の参加者数の内訳を表2に示す。参加者（障害者）は23名であり、障害者（18歳以上）が15名、障害児（18歳未満）が8名であった。参加者（一般）は19名であり、家族や同伴者だけでなく地域在住の一般の方も多数参加していた。

指導、進行、介助、機器のセッティング等を行う病院スタッフとは別に、障害者スポーツに関心のある看護師やPT等のセラピストなど実49名の医療従事者（神奈川リハビリテーション病院のスタッフ）が感染対策を行った上で参加した。

表2. 参加者数の内訳

		参加者数（人）			
		障害者（18歳以上）	障害児（18歳未満）	一般参加者	医療従事者
3月19日 （土）	午前の部	1	1	4	25
	午後の部	1	3	4	25
3月20日 （日）	午前の部	5	1	1	15
	午後の部	2	0	2	14
3月21日 （月）	午前の部	0	1	4	15
	午後の部	1	1	4	15
3月26日 （土）	午後の部	5	1	0	10
合計		15	8	19	49（重複除く）



図 16. リハエンジニアによる車椅子の適合



図 17. 体育指導員による競技用車椅子の説明



図 18. 車椅子操作の練習



図 19. 車いすバスケットボールの体験



図 20. 車椅子を用いたバドミントンの体験



図 21. 車いすテニスの体験



図 22. 陸上競技用車椅子の適合と体験



図 23. 自転車競技用ハンドサイクルの体験



図 24. 自転車競技（アダプタータイプ）の体験



図 25. 100m 走路での陸上競技体験



図 26. 身体状況に応じた競技体験のサポート



図 27. 身体状況に応じたメニューの選択



図 28. 身体状況に応じた用具の工夫



図 29. 義肢装具士による義足の調整



図 30. 大腿義足者の陸上競技体験



図 31. 両下腿義足者の陸上競技体験

(2). アンケートの結果

アンケートを参加者（障害者）と参加者（一般）、医療従事者に分類して集計した。回答者数（回答率）は参加者（障害者）が 23 名（100%）、参加者（一般）が 19 名（100%）、医療従事者が 38 名（78%）であった。

①参加者の年齢（図 32）

参加者（障害者）の年齢は、10 歳未満から 60 代までそれぞれの年代で参加が認められた。参加者（一般）の年齢は、10 歳未満と 10 代、30 代から 60 代の範囲で認められた。医療従事者の年齢は、20 代から 60 代の範囲であった。すべての分類で 70 代の参加者は今回の障害者スポーツ体験会では認められなかった。

②参加者の男女比（図 33）

参加者（障害者）の男女比は、男性 19：女性 3 であった。参加者（一般）の男女比は、男性 9：女性 10 であった。医療従事者の男女比は、男性 15：女性 23 であった。

③体験会の情報取得方法（図 34）

参加者（障害者）と参加者（一般）は、ともに神奈川県リハビリテーション病院の HP との回答が最も多かった。その他の項目では、担当医師や担当理学療法士、作業療法士の紹介との回答があった。

④体験会の満足度（5 段階評価：5 が満足、1 が不満（図 35））

参加者（障害者）の平均値と標準偏差が 4.83 ± 0.34 、参加者（一般）が 5.00 ± 0.00 、医療従事者が 4.87 ± 0.34 とすべての参加者分類で高い満足度が認められた。

⑤障害者スポーツ用の用具（専用の車椅子や義足等）の使用経験の有無（図 36）

参加者（障害者）は 22 名中 14 名（64%）が経験あると回答していた。使用経験のある用具は、車いすバスケットボール用車椅子と陸上競技用車椅子（レーサー）の 2 種類であった。参加者（一般）は、19 名中 4 名（21%）が経験あると回答していた。使用経験のある用具は、車いすバスケットボール用車椅子のみであった。医療従事者は 38 名中 18 名（47%）が経験あると回答していた。使用経験のある用具は、車いすバスケットボール用車椅子と陸上競技用車椅子（レーサー）、車いすテニス用車椅子、ウィルチェアラグビー用車椅子、スポーツ義足（体験用義足）など、他の参加者分類より多くの種類が挙げられた。

⑥今回体験した 5 つの競技のことを知っていたかについて

・車いすバスケットボールは参加者（障害者）と参加者（一般）、医療従事者全員が知っていたと回答していた。

・バドミントンでは参加者（障害者）23 名中 22 名（96%）、参加者（一般）19 名中 17 名（89%）、医療従事者 38 名中 36 名（95%）が知っていると言っていた。

・車いすテニスでは参加者（障害者）23 名中 22 名（96%）、参加者（一般）19 名中 19 名（100%）、医療従事者 38 名中 36 名（95%）が知っていると言っている。

・陸上競技（レーサー、義足）では参加者（障害者）23 名中 21 名（91%）、参加者（一般）19 名中 15 名（79%）、医療従事者 38 名中 35 名（92%）が知っていると言っている。

・自転車競技は参加者（障害者）23 名中 16 名（70%）、参加者（一般）19 名中 11 名（58%）、医療従事者 38 名中 21 名（55%）が知っていると言っており、他の競技に比べもっとも認知度が低い結果となった。

⑧ 体験した障害者スポーツ競技への興味（5 段階評価：5 が興味ある、1 が興味なし（図 37））

参加者（障害者）の平均値と標準偏差が 4.87 ± 0.34 、参加者（一般）が 4.95 ± 0.23 、医療従事者が 4.82 ± 0.39 とすべての参加者分類で高い興味が認められた。

⑧障害者スポーツの体験経験の有無（図 38）

参加者（障害者）は 19 名中 14 名（74%）が経験ありとの回答であり、体験したことある競技は車いすバスケットボール、バドミントン、車いすテニス、ボッチャ、卓球といった回答が挙げられた。参加者（一般）は、14 名中 2 名（21%）が経験ありとの回答であり、体験したことのある競技は車いすバスケットボールのみであった。医療従事者は、38 名中 18 名（47%）が経験ありと回答しており、その内訳は車いすバスケットボールやウィルチェアラグビー、陸上競技といった回答が挙げられた。

⑨ 現在取り組んでいる（参加）している障害者スポーツの有無（図 39、40）

参加者（障害者）は 19 名中 12 名（63%）が取り組んでいる（参加）との回答であった。「取り組んでいる（参加）競技」は、車いすバスケットボール、卓球、バドミントン、陸上競技、水泳といった回答が挙げられた。「参加の頻度」は、週に 1～2 日が 6 名、月に 1～3 日が 5 名、3 ヶ月に 1～2 日が 1 名であった。「参加のきっかけ」は、家族のすすめが 1 名、医師のすすめが 1 名、医療従事者のすすめが 7 名、スポーツ団体等関係者の誘いが 1 名、障害がある友人・知人・同僚のすすめが 4 名であった。

参加者（一般）は、14 名中 0 名（0%）であった。

医療従事者は、38 名中 6 名（16%）が取り組んでいる（参加）との回答であった。「取り組んでいる（参加）競技」は、車いすバスケットボールやウィルチェアラグビー、ツインバスケットボール、陸上競技、アンプティサッカーであった。「参加の頻度」は、月に 1～3 日が 2 名、3 ヶ月に 1～2 日が 2 名、年に 1～3 日が 2 名であった。「参加のきっかけ」についての質問では、医療従事者のすすめが 1 名、スポーツ団体等の関係者の誘いが 2 名、有名選手・パラリンピアンの影響が 1 名、障害がある友人・知人・同僚のすすめが 1 名、友人・知人・同僚のすすめが 1 名であった。

⑩継続的な障害者スポーツへの参加希望について（5段階評価：5が参加したい、1が参加したいとおもわない（図 41））

（現在、取り組んでいる（参加）障害者スポーツがないと答えた方が回答対象）

参加者（障害者）7 名の平均値と標準偏差が 4.38 ± 0.66 、参加者（一般）14 名が 4.57 ± 0.53 、医療従事者 32 名が 4.50 ± 0.65 であった。

⑩ 障害者スポーツ競技体験の機会を希望するかについて（5段階評価：5が希望する、1が希望しない（図 42））

参加者（障害者）19 名の平均値と標準偏差が 4.71 ± 0.52 、参加者（一般）14 名が 4.89 ± 0.32 、医療従事者 38 名が 4.86 ± 0.36 であった。

(3). スポーツ用義足を用いた陸上競技体験の50m走のタイム

陸上競技場での障害者スポーツ体験会では、スポーツ用義足を用いる陸上競技体験者が5名参加していたので、50m走や100m走のタイムも記録した（表3）。

表3. スポーツ用義足を用いた50mと100m走のタイム

対象者	身体状況	50m	100m
C	両下腿切断	11" 10	24" 02
D	大腿切断	12" 36	—
E	大腿切断	14" 36	33" 58
F	大腿切断	19" 23	—
H（体験会のみ参加）	両下腿切断者	8" 72	17" 36

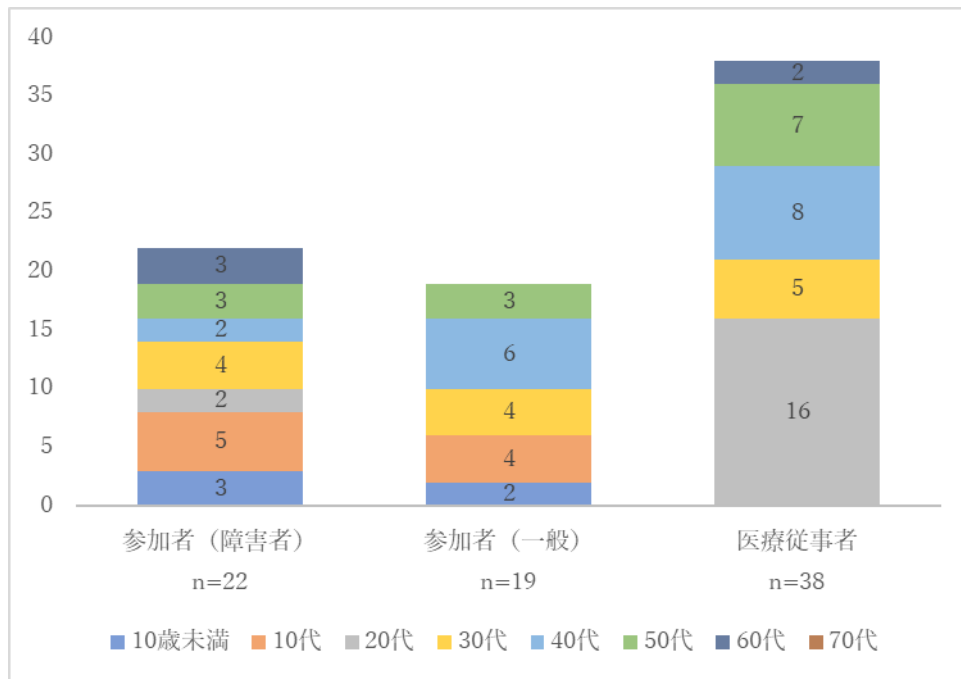


図 32. 参加者の年齢

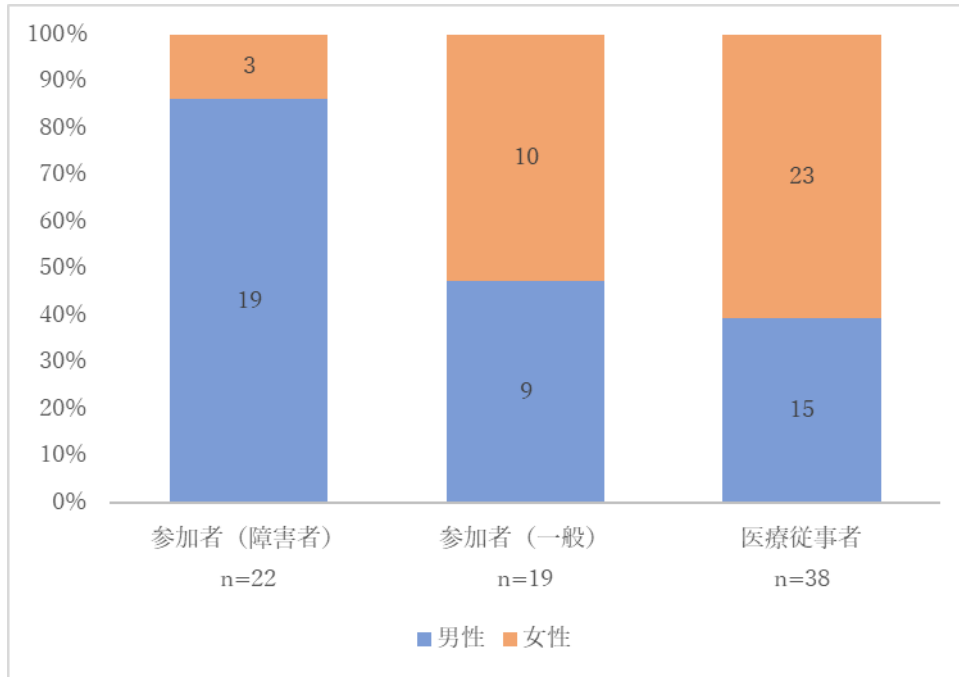


図 33. 参加者の男女比

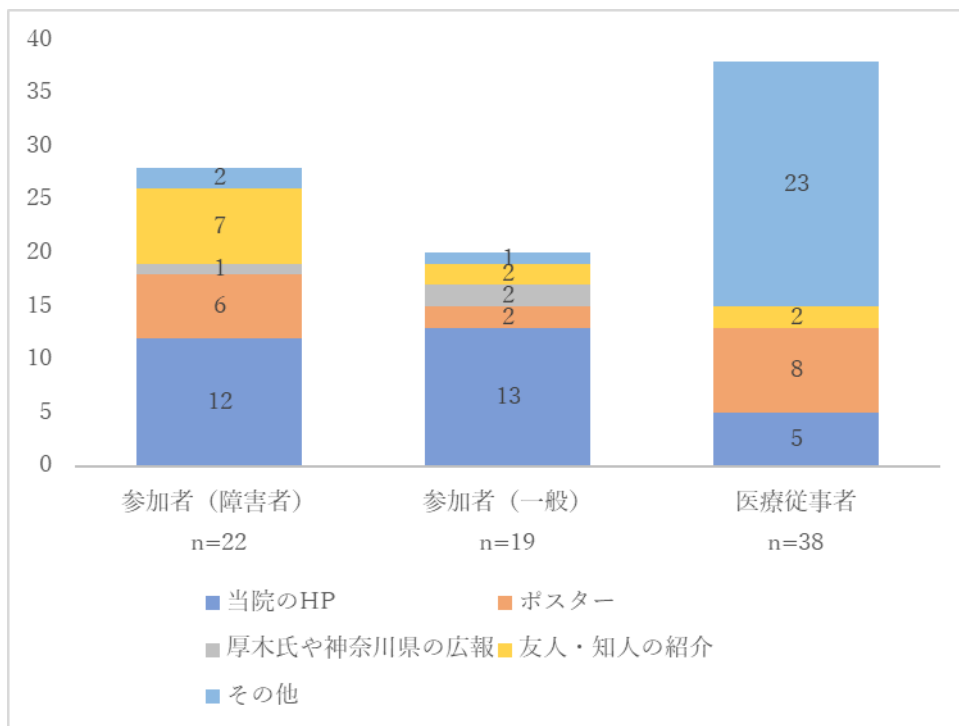


図 34. 体験会の情報取得方法

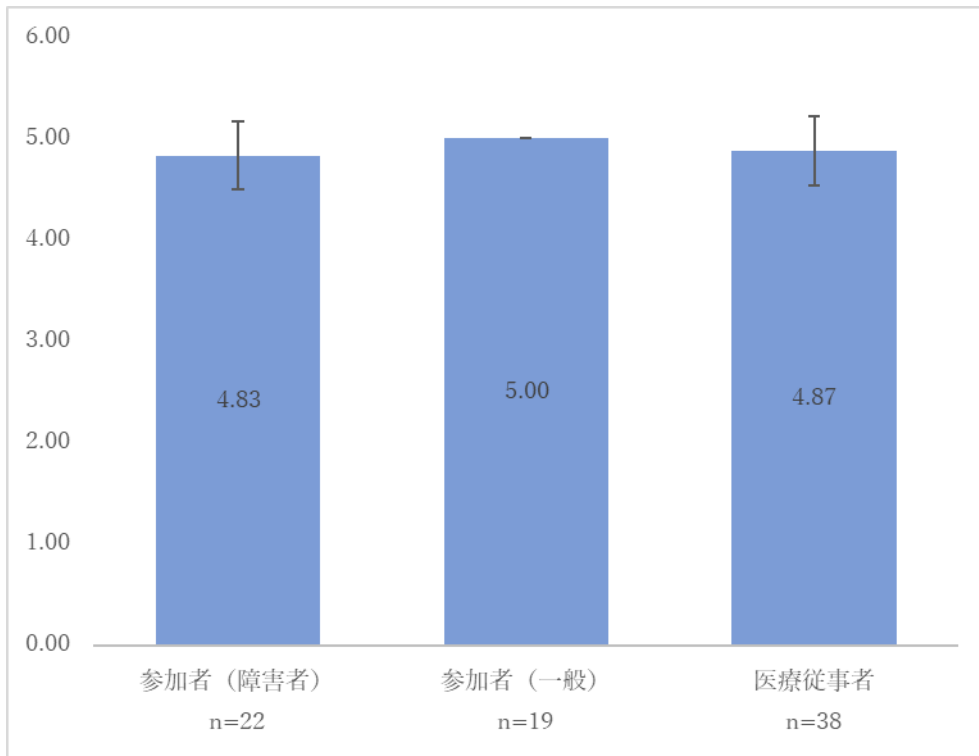


図 35. 体験会の満足度
(5段階：5が満足、1が不満)

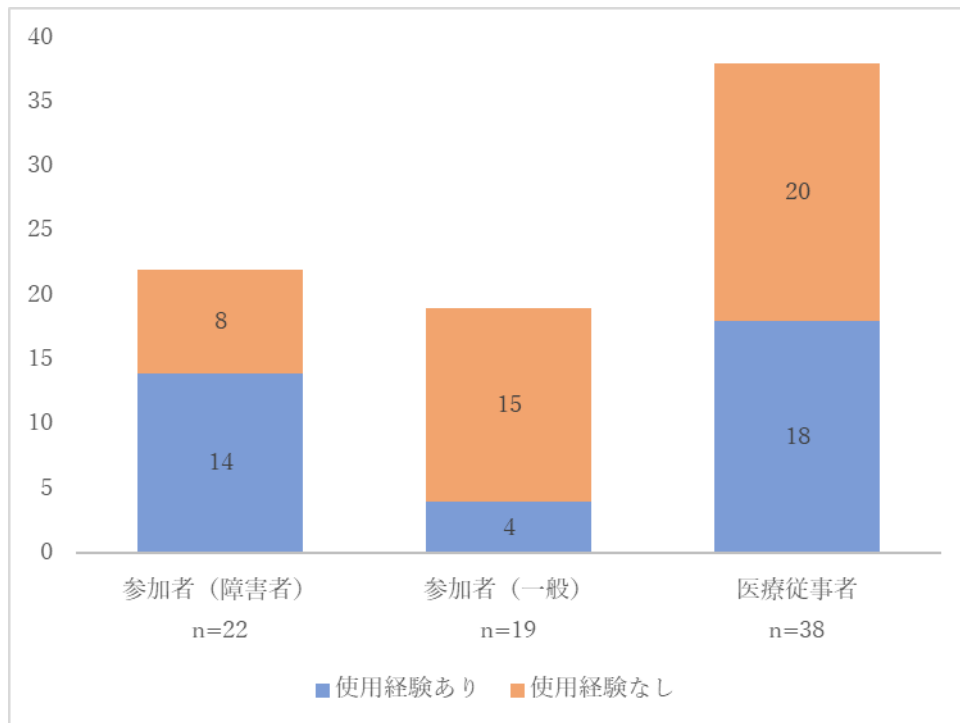


図 36. 障害者スポーツ用の用具（専用の車椅子や義足等）の使用経験の有無

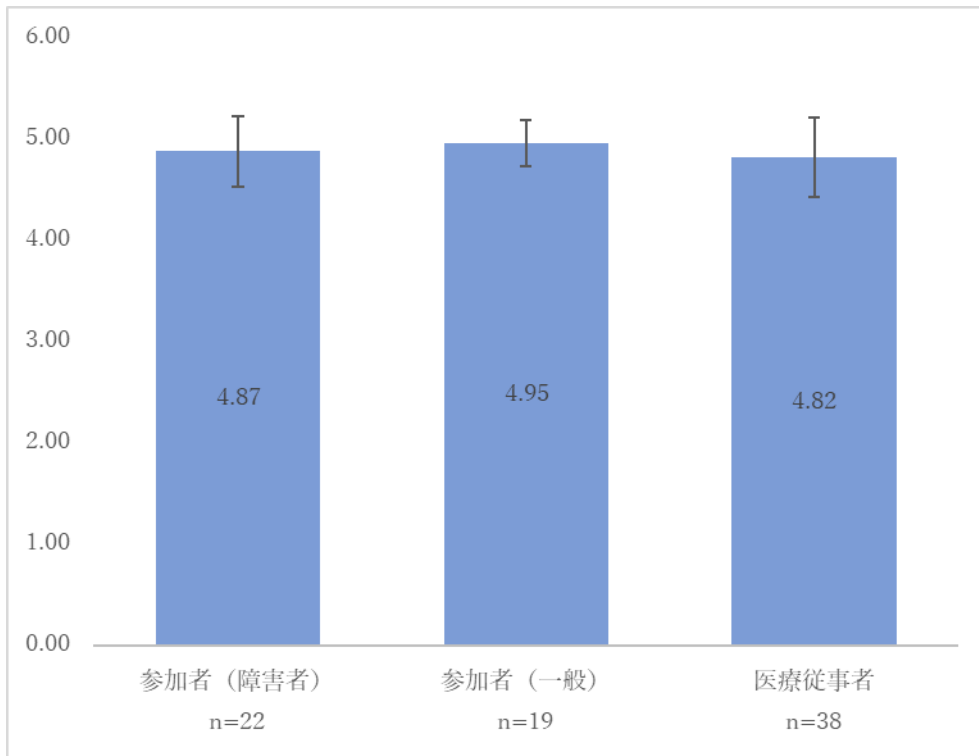


図 37. 体験を通じた障害者スポーツへの興味
(5段階：5が興味ある、1が興味ない)

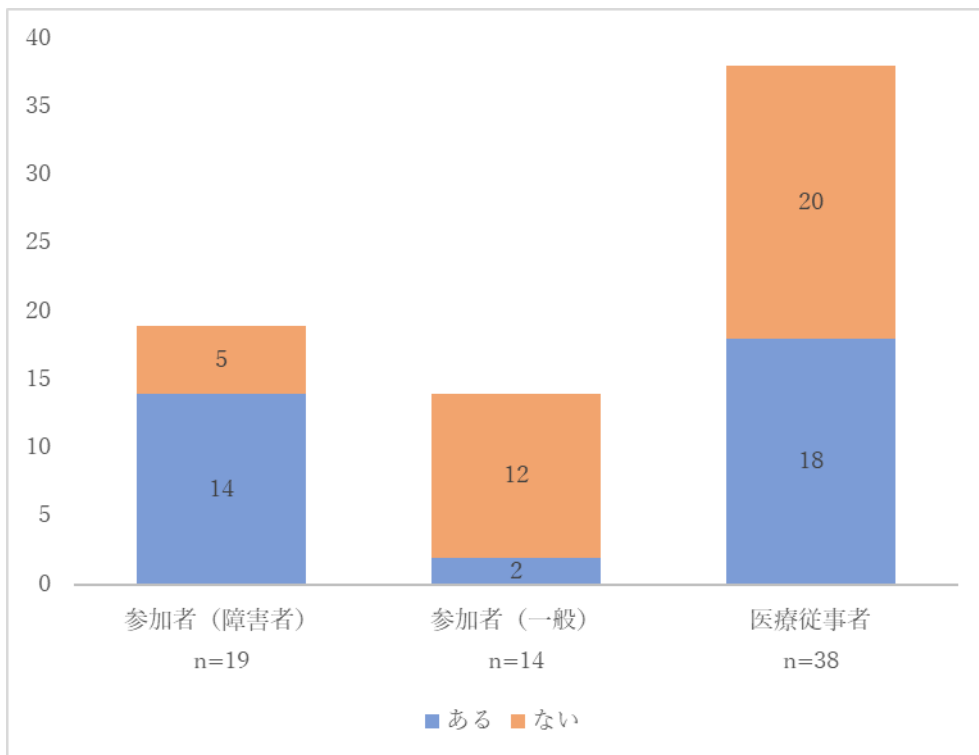


図 38. 障害者スポーツの体験経験の有無

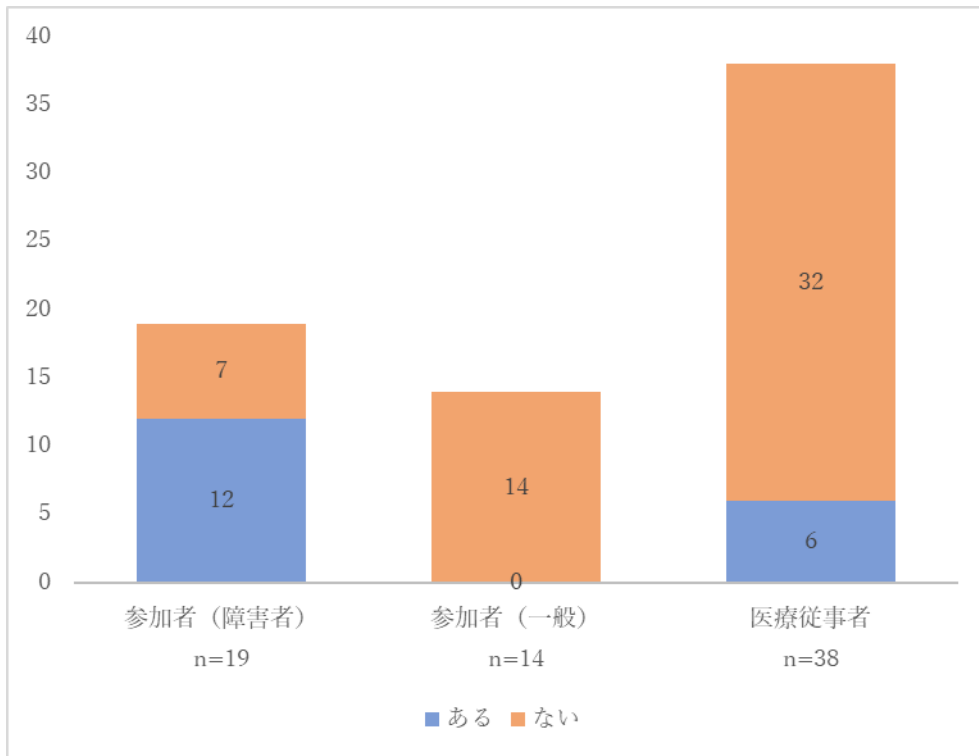


図 39. 現在取り組んでいる（参加）障害者スポーツの有無

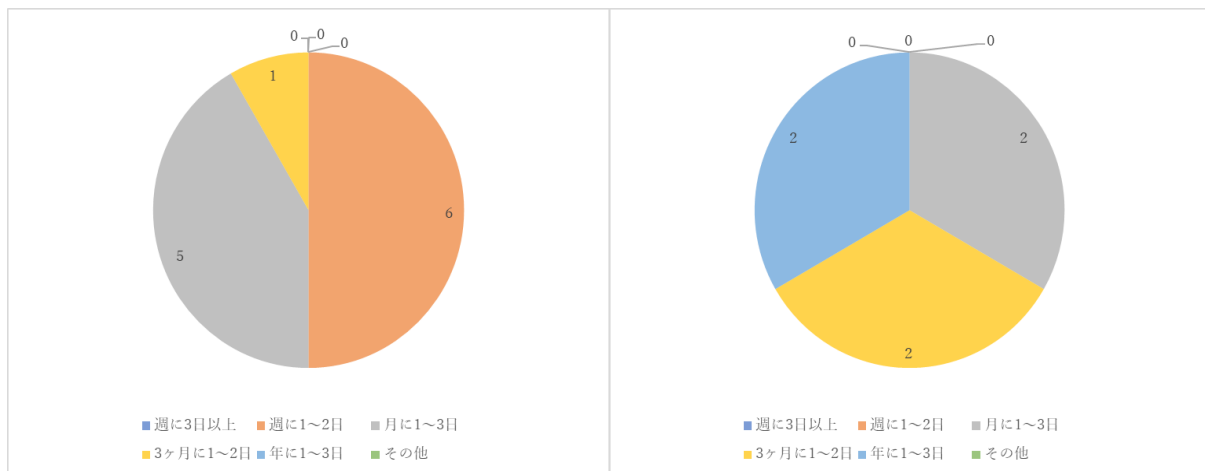


図 40. 障害者スポーツの実施（参加）頻度

左図. 参加者（障害者）の回答（n=12）

右図. 医療従事者の回答（n=6）

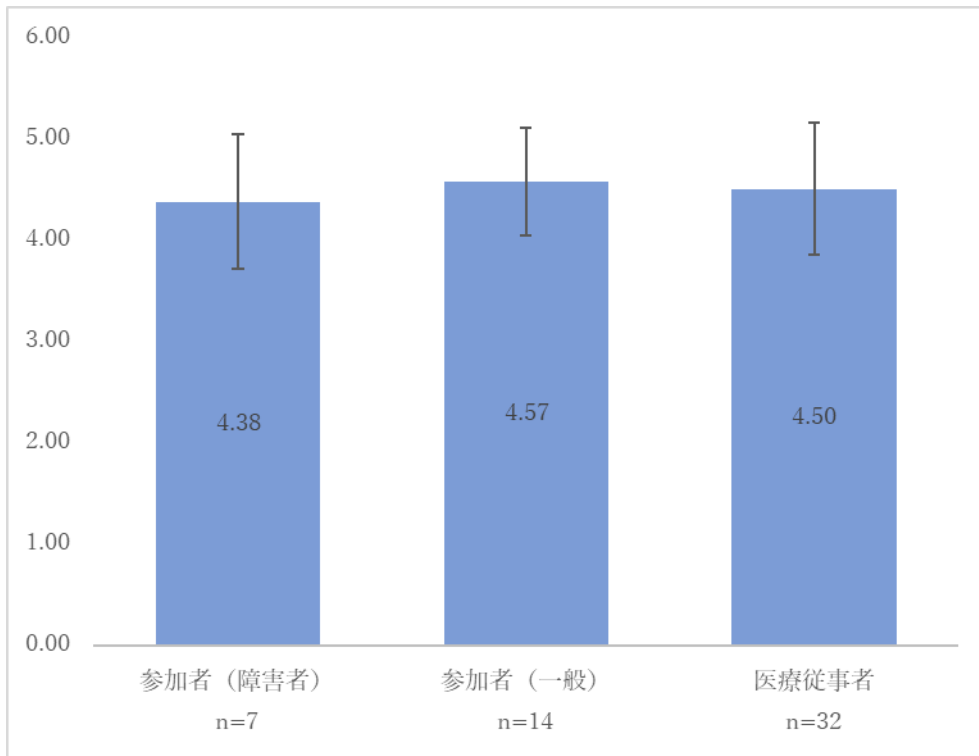


図 41. 障害者スポーツ競技への継続的な参加希望について
(5段階：5が参加したい、1が参加したいと思わない)

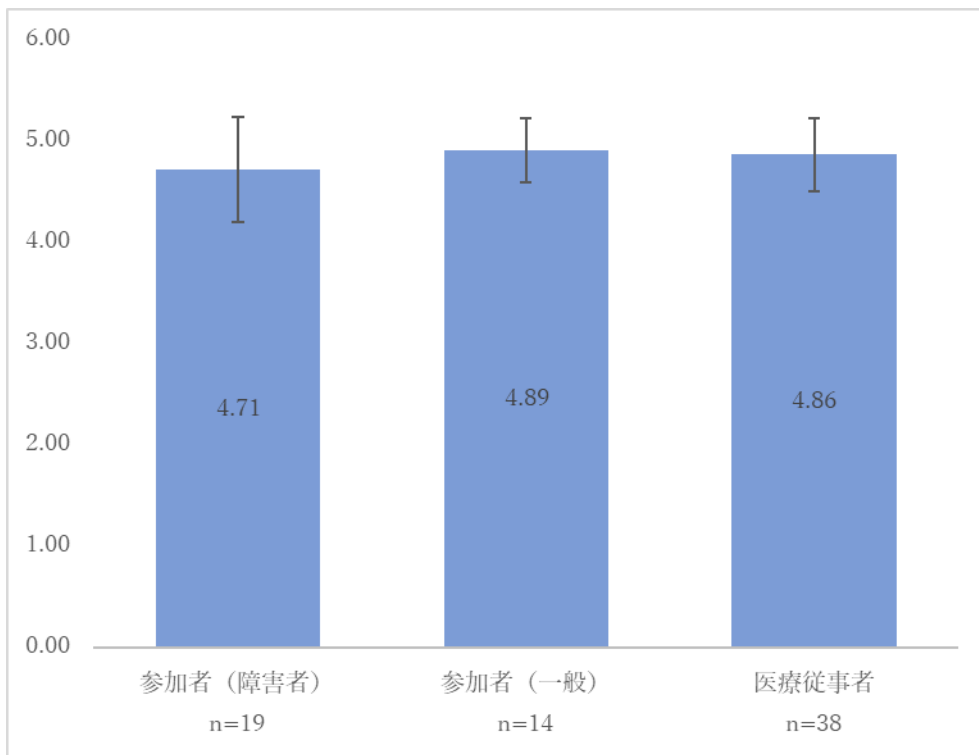


図 42. 障害者スポーツ競技体験の希望について
(5段階：5が希望する、1が希望しない)

5. おわりに

本事業では、障害者（児）のスポーツを通じた社会参加と共生社会の実現を目指すため、障害者スポーツに参加するきっかけを提供し、①仲間と共に障害者スポーツを始め、楽しみ、競うことができる環境の整備、②身体状況に応じた競技用車椅子や競技用義足の適合と活用の支援、③健康増進や二次障害予防に向けた支援の実施体制の構築を目指した。

今回、仲間と共に障害者スポーツを始め、楽しみ、競うことができる環境を構築するために、地域に根付いたリハビリテーション病院を障害者スポーツの活動拠点として整備した。

障害者スポーツを体験した参加者は、障害者スポーツへの興味を示し、体験による高い満足度を示していた。複数名での障害者スポーツの実施は、障害の有無に限らず、障害者スポーツを体験によって、その楽しさを知り、喜びを感じ、共感する場の提供に繋がったと感じている。障害者スポーツの継続に向けては、このようなつながりも重要とされているが、個で取り組む方法（運動も含め）について合わせて伝えることで、継続的なスポーツ参加に繋がると考える。

今回、スポーツ用義足を用いた陸上競技体験者（3名）は、2022年4月に開催される第16回神奈川県障害者スポーツ大会の陸上競技へのエントリーを決めるなど、継続的な参加に意欲を示している。このように、障害者スポーツの体験を通じてスポーツの魅力に気づいてもらうためのきっかけの場を継続的に運営していくことが今後の目標の1つである。

アンケートの結果から、今回継続的に障害者スポーツを実施している障害者にそのきっかけを聞くと約60%が医療従事者のすすめであると回答していた。一方で、医療従事者は障害者スポーツの競技については知っているものの障害者スポーツの体験経験がある者は20%にも満たなかった。今回、全ての参加者分類において障害者スポーツの体験を通じて高い興味と高い満足度を得ることができたことから、医療従事者に障害者スポーツの魅力伝えることにより、障害者に障害者スポーツへの参加を促すきっかけに繋がると示唆された。今回のアンケートは、地域に根付いたリハビリテーション病院が体験や参加の拠点としてだけでなく、そのきっかけとなる情報を発信する拠点となり得ることを示している。そのため、障害者スポーツの参加のきっかけを提供し継続的に支援をおこなう体制をさらに強固なものとしていく。

また、医療従事者の参加の拡大は、障害者の健康増進や二次障害予防に向けた支援体制の構築だけでなく、用具の適合により、安全に楽に用具を用いて障害者スポーツに参加できる環境を構築することにも繋がる。これにより、継続的な参加に向けた身体的、精神的な負担軽減にもつながることができる。

今回、身体状況に応じた競技用車椅子やスポーツ用義足の適合と評価、支援では、当院に所属する理学療法士やリハエンジニア、義肢装具士の臨床経験を活かして対応した。その他、障害者スポーツ体験会では、地域で活躍する義肢装具士やエンジニア、メーカー、そして競技団体等の協力を得て実施している。このように地域の専門職種と連携することは、障害者スポーツを支える人材の拡大に繋がり、地域における障害者スポーツの新たな拠点構築に繋がるため、本事業により構築した障害者スポーツの活動拠点の役割の1つであると考えられる。

今後は、障害者スポーツの活動拠点の継続的な運営に加え、地域と連携し、第3期「スポーツ基本計画」に示されている①スポーツを「つくる／はぐくむ」、②「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる、③スポーツに「誰もがアクセス」できる場づくりをおこない、地域における障害者スポーツの普及に務めていく。